

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600406		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム豊田長藤の家 (3ユニット合同)		
所在地	静岡県磐田市上新屋483-1		
自己評価作成日	平成27年9月9日	評価結果市町村受理日	平成27年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoCd=2276600406-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年に開設以来、利用者様及びご家族様、近隣の方々や行政のご理解・ご協力を得る事により地域密着型サービスも定着してまいりました。利用者様やご家族様の意向に添う事が出来るように出来る限り工夫し、自己決定を促しながら家庭的な雰囲気の中で心地良く過ごしていただけるよう支援しています。定期的に幼稚園の園児やボランティアの来館があり、子供達と触れ合ったり歌を披露してくれます。散歩は近所で飼育されている孔雀や季節の花・田畑の風景が入居者様の笑顔を誘ってくれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から12年となり、散歩では「よく出てるね」「少し涼しい時にしたらどう〜?」と気軽に声がかかり、地域に受け入れられています。運営推進会議は信頼の場へと発展し、防災・災害についても自治会と共助確認ができており、「100歳を迎える人のお祝いを」との利用者の進言には行政や地域代表の賛同も得られ、円満具足が視えます。本年4月に着任したばかりの管理者をはじめ男性職員の比率が高く、女性特有の気遣いがやや足りないものの、課題を謙虚に掴み1歩1歩進む堅実さがみられます。なかでも「意向に沿う工夫と自己決定、では、頑固な入浴拒否だった人が週3回利用するに至っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、職員会議などを通して、基本理念の共有化、質の向上を図り実践に向けて努力しています。	理念は運営目標とともに掲示され、また朝礼や会議で読み上げています。管理者が「相手の立場で考えよう」と姿勢を正し、「散歩では積極的に挨拶しよう」と実践を促していますが、浸透にまでは及んでいません。	介護技術に係るもの及び理念に即した個人目標をもち、一人ひとりの成長を診てゆくことでプランへの理解とチームワークがさらに高まることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等を通じ近隣住民の方々と挨拶・会話を通しながら、地域の一員として暮らせるように努めています。	年2回の園児30名の訪問と中学生の体験学習が定着しており、散歩では「よく出てるね」「もう少し涼しい時間帯にしたらどう〜？」と気軽に話しかけられていて、地域に受け入れられていることを実感しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや介護相談員の来設時には情報交換を行ったり、推進会議等を通じて自治会等への情報発信を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域、行政、入居者ご家族様等と幅広く意見交換をする機会を設けています。	丁寧な運営は信頼の場へと発展し、防災・災害についても共助確認ができています。利用者からの「100歳を迎える人のお祝いを」との進言は行政や地域代表の賛同も得られ、円満具足が覗えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や生活保護担当者との連絡を通じながら情報提供をしています。	市主催のサービス事業所連絡会に都度出向いており、毎月訪れる介護相談員との意見交換会にも出席を予定しています。わからないことは電話で済ませずに直接相談しており、顔の見える関係を心がけています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為に最低限の施錠以外は、身体拘束をしないように徹底しています。	不意を突いて戸外へと出てしまう利用者が1名いるため、玄関施錠せざるを得ない状況にあります。法人研修ははじめ学習機会はあるものの、認識なくスピーチロックを発したり感情面が走ることは否めないため、職員間で注意し合える風土を作ろうとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し再研修を実施し、職員間で注意し合える職場風土を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で制度を活用している方がいますので、その方を通じ学ぶ機会としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様に説明し、少しでも不安を軽減していただいて契約から入居に至る様に心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見や苦情等に対しては、速やかに対応し地域責任者に報告相談記録した上で運営等に活かせるよう努めています。	運営推進会議議事録には家族の忌憚ない意見が踊り、「レクリエーションが増えたらいい」「駐車場出入口の段差を解消してほしい」「短期間で職員が入れ替わるのは不安」と、具体的に挙げられています。	是正策を実行する力をつけるためにも、ユニットリーダーの育成(管理者の片腕を育てる)を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見については常に耳を傾け、良いものについては速やかに実現できるよう努めている。職員会議は個々に発言しやすいように進行しています。	職員会議は毎月おこない、発言の少ない職員にも声をだしてもらいたいとして司会と書記は持ち回りです。トップダウンにならないようユニットに権限を委譲していますが、今後は面接を予定しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別のキャリアパス制度を導入し、資格手当以外の個々のスキルアップに応じた給与体系になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に本部での研修及び講座に参加出来るシステムがあり、その他必要に応じ外部の研修に参加を促しています。新入社員用の研修も設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月磐田地区管理者会議、グループ全体の管理者会議等を実施しています。本部にグループホーム推進室が設けられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼を築くには最初の挨拶、自己紹介から始まります。入居前に本人にも見学を勧めたり、当方から訪問し要望等を伺い説明不足にならないよう心掛けています。担当ケアマネさんからの情報も参考としています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様とご家族様の要望や意見はしっかり傾聴し、必要に応じ面談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族様の話を傾聴し、必要なサービスを導き出すようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と共に利用者を支え、生活リハビリなどを通して自立支援を意識しながら利用者が生き甲斐を見出せるように働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての絆を受け入れるという考えで、ご家族様や関係者の意見等も傾聴しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのかかりつけ医の受診を希望する入居者様には以前の生活を変えないよう支援しています。回想法を駆使して話す事により個々の思い出を大切にしています。	衣類はシーズン毎の入れ替えを家族にお願いしています。こだわりの化粧品を買いに職員と出かけるのが楽しみな人、新聞購読を続ける人、位牌に亡き人がいつも飲んでた銘柄の飲料を供える人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席の位置を工夫したり、利用者共通の話題を促したりして、より良い関係を保てるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば相談に応じ、良好な関係を維持出来るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の思いや希望を引き出せる努力をしています。	生活歴や趣味を把握しての話材提供における情報収集を重視しています。「利用者はポディランゲージから気持ちを读むことに長けているのだから、自身の口調や表情を工夫して欲しい」ことを常に話して伝えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントシートを作成し、本人とのコミュニケーションを取る中で本人の暮らしぶり等の情報を記録して参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が申し送りノートや介護記録を活用する事によって情報交換し、偏った見方をせず一人ひとりが有する力を活かせるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日頃の様子を見て本人や家族と話し合った上で、本人にとって心地よい介護計画を作成しています。モニタリングを徹底しています。	各種記録からモニタリングした計画作成担当者の下、サービス担当者会議開催日に出勤の職員たちで協議しています。日常観察からリビングのソファが心地良いことを知り、安寧の環境を整えることができた例もあります。	サービス担当者会議は家族の都合に合わせて面会時などで充当されていますが、説明のみとなることもあるため、今後工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気付いた事を介護記録に記入し普段からファイリングしています。それを介護計画に活かし情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分に多機能化を図れていませんが、時々状況により出来るだけ柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある環境に利用者を同行(買い物・散歩)することになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは密に連携を取り定期的に受診援助をしています。必要に応じ、掛かりつけ医療機関より紹介していただき最適な医療を受けるよう支援しています。	自由に選んでもらっていますが、ADL低下に伴い近くの内科医である協力医へと2名を残し変更しています。医療連携体制が敷かれ、週一度看護師が来所しており、医療視点で日頃の疑問が解決しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により医療連携体制を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	再入居が可能な状態かご家族から状況を確認したり、入院医療機関を訪問して確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を尊重し、掛かりつけ医療機関との連絡調整を行い、希望に添えられるよう努力しています。	食欲減退から病院受診し、経口摂取が可能かどうかの判断をもとに経管栄養を含み家族と検討して療養型へ移った例がありますが、ターミナルケアまでの実績はありません。家族の希望を受け、態勢を進め安心してもらえるようにしたいとの意向をもっています。	研修はおこなっていますので、書面整備も併せて進むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が受講すべき研修の中に事故発生をテーマにしたものが含まれています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し運営推進会議で自治会等と災害時の避難等について話し合いをしています。	夜間想定を含み年3回おこない、避難経路と誘導方法、通報・消火と多様に取り組み、防災設備業者による消火機器点検も2回あります。事業所では参加できていませんが、地域訓練では安否確認に来てもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時には必ず声掛け・ノックをしています。個人記録は他者の眼につかない様に保管しています。排泄ケアに関しては尊厳を持って対応するように努めています。	「声が大きいと威圧的に感じてしまう」「親しさのなかにも人生の先輩であることを忘れないように」と都度指導し、また自身で着替えができる人には視線を逸らせたり、危険のない程度に場を外したりしています。	「地声が強い職員がいて、特に排泄介助の声かけには課題がある」としていただきますので、今回の外部評価を機に職員間で話し合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る場面を作っています。耳や言葉の不自由な入居者の方に対しても工夫して意思の確認をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を促し、本人の意向を重視するよう意識しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の要求を聞き対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個人のADLに合わせた生活リハビリを促し、食器洗いや片付けなど職員と一緒にしています。	普段は惣菜が届いていますが、手作り食の日曜日には食が進まない人も完食できるとの状況から「手作りの日をもう1日増やしたい」と考えています。食前に嚥下体操をおこない、月に一度季節行事食を運用しています。	男性職員のため手づくりの追加日が設定しにくいとのことですが、鉄板(お好み焼き、焼きそば)や鍋といった手軽なメニューで負担なく進むことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化のあった際は介護記録、申し送りノートに記録しています。栄養バランスは協力医での血液検査結果時に指導され、症状が気になる場合は主治医に指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの出来る方は声掛けしており、出来ない方はセットしたり、うがいの手助けを行うようにしています。義歯の方は洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用する事は避け、排泄パターンを把握し、個別対応を徹底するよう心掛けています。	本人の訴えと記録からパターンを予測して職員が動き、定期時間をめやすとはしていません。立位がとれない人には安全を優先してベッド上でということもありますが、声かけは最小限として羞恥心に気配りしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取っていただくよう声掛けし、水分摂取の少ない方や便秘の方はスポーツ飲料等で工夫しています。症状が改善しない方は掛かりつけ医に受診し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番を変えたり要求に合わせて気持ち良く入浴していただけるように工夫しています。	入浴曜日を決めてはいますが「汗をかいたから」といった状況に随時応じ、また拒否には日を替え気持ちに添っています。職員の根気強い関わりから清潔保持が叶ったケースでは家族も共に喜び合いました。	床、コンタクトポイントは次亜塩素酸で拭き概ね清潔ですが、浴室タイルにはカビ汚れがありました。清掃項目に加えるべき箇所を話し合い、それらを必須とすることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けしソファーに腰掛けていただいたり居室への出入りは本人にお任せし温度調整を小まめにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居の際に内服薬の内容について職員が把握し、変化が生じた際は記録して情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	要求要望を重視し個別の支援が出来るよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は日常的に行っており、閉じこもらないよう積極的に声掛けも行っていきます。ご家族との外出・外泊は自由にいただいています。	大型車両もなく車いす利用も増えたため、要望に沿った買い物外出が主流となっています。「天気の良い日は極力外へ」との言葉を裏付けるように、洗濯物の取り込みに移動したり散歩に出かけたりと「マンツーマンで頻回な、光景を視認しました。	車いすの人の支援を課題とされているとのことですので、家族とともに職員OBや地域の皆さんにお願いできる関係を築くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で一括管理していますが、ご自分で持っている方もおり買い物の援助もしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もおり、ご家族の協力をいただき電話の取り次ぎは自由に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手にならないよう心掛け家庭に居るような落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう工夫しています。	玄関に並ぶ鉢植えには季節の花々が咲いていますが、異食などを鑑み室内の掲示・物品を除いています。無機質な空間を少しでも高めようと職員にスマイルを奨励し、また利用者間に体感格差があるため座席を変えたり窓を開けて居心地良さに留意していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良さを重視し、必要に応じてテーブルの席を変えたりソファの向きを工夫しています。個室への出入りは自由に行なっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れて馴染んだものを持ってきていただくようにしています。居室内の配置はご本人とご家族に決めて頂いています。	ミニ冷蔵庫にジュースを常備する人をはじめ、好みのものを持ち込めていました。手の届く域にモノを置くことから繁雑になっても本人が移動するに危険が伴わない限り見守る例からは自由度の高さが受け止められます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが食堂、廊下、居室、トイレ、浴室に設置してあり安全に自由に移動出来るよう環境を整えています。		